

龍宮社 伊勢二見浦 二見興玉神社境内社

御祭神 大綿津見神

寛政四年(一七九二年)旧暦五月十五日、大風水害のため、氏子内江地区の民家の大半が流出し、難を逃れた家は僅か五、六軒という災害が発生致しました。以来、犠牲者の供養又は、二度と災害が起こらないようにと、大江寺住職尊実和尚が海の安全を祈願し、江の河口に龍神を勧請致しました。その後の寛保の荒浪、明治の高潮にも御神威の靈顯があり被害を減じ益々信奉の念を高められました。

その御神徳の程甚だ厚く氏子は元より遠近の崇敬者より龍神さん、龍宮さんと厚い御崇敬を賜っております。昭和十三年に当社境内に遷座し、昭和二十六年に二見興玉神社の境内社龍宮社として奉祀され、御祭神・大綿津見神は海の守護神として篤く信仰されており、全国からの崇敬が篤く、心願成就・開運・海上安全・大漁満足・商売繁盛などの御利益があると言われております。

例祭 併せて 郷中施神事 旧暦五月十五日

寛政年間の水害の際、郷中が施しあって立ち直ったことから、犠牲者の供養と二度と災害が起こらないように祈りを込め、氏子等が海に神饌(胡瓜・ミル・まつ菜、オゴ等)をするのは水害を急に見るな、待つな、おごるなの意味からであり、この日は山や海、田畑への仕事を休み、祭典後、氏子は揃って昼食を共にしながら、その日を偲ぶ習慣を「日待ち」と言います。